

あー ばしり、あらすか、うくら いいな
(地名と飴紙をめぐって)

あー ばしり、えーつと「網」だよ、それから「走」る、だ。荷物の宛先を書こうとしてペンを握り、「網走」と筆記していく。漢字の成り立ちの分厚い地層の地表に写し撮る、部首、編、旁、これ画数が多いなあ。思考の左脳と筆記の速度が噛み合っていないのか、紙の上にあられた文字は手振れをおこしている、字、下手だな。

私は都内と道東の網走エリアの小さな町とでの2拠点居住を試みています。すばらしく恵まれたところですよ、北海道をひとくりに捉えてはなりません、気候はマイルド、雪は少なく、クルマの移動では、町中のごく狭いところ以外は車線や標識に翻弄されることなく、時速60キロ以下で走行することはあまりない。

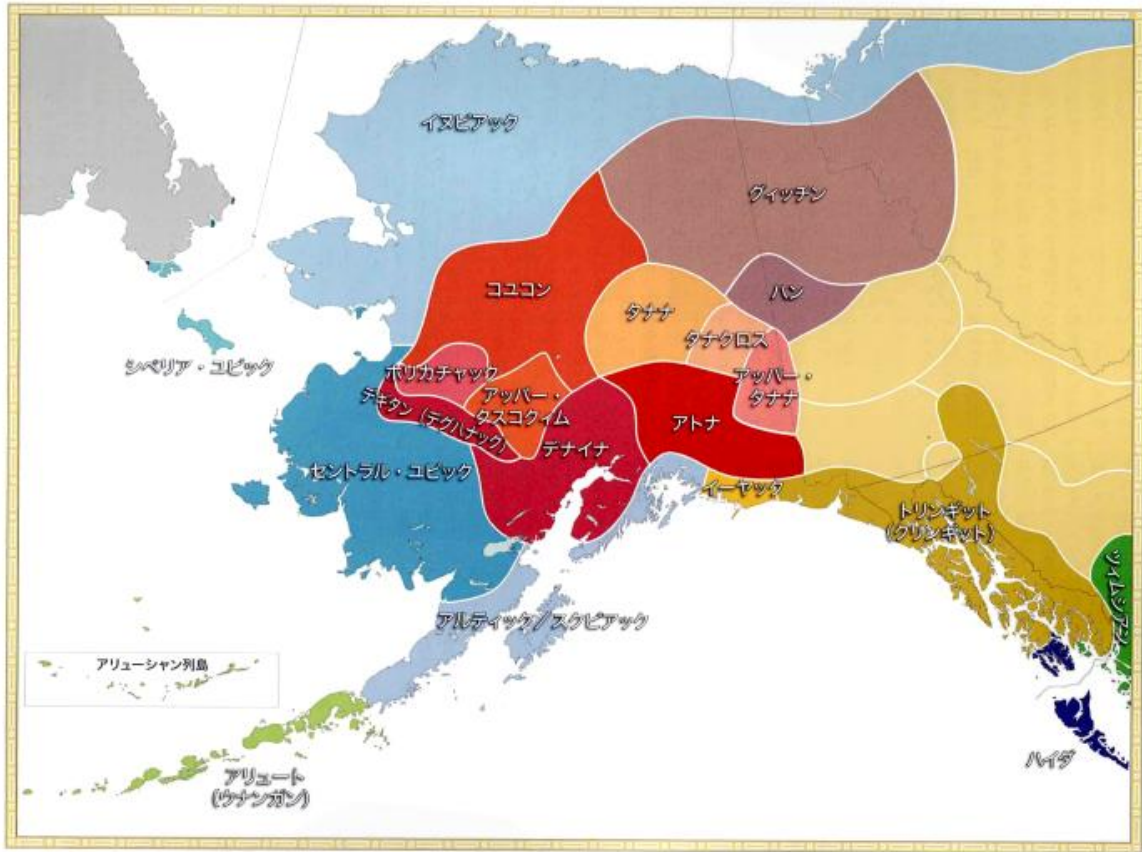
さて、あばしり、網(あみ)走る? なんだってこんな名称になったのだろうか、調べてみる。アイヌ語は、特定の文字で表記する方法が定まっていないので、地名の音はカタカナ表記にします。アイヌ語で「入口の地」を意味する「アパシリ」が転じたもの、「我らが発明した地」、「チパシリ(神に捧げ物をする場所)」、「アパ・シリ(船の出入りする

ありよしきな」

土地、見つけた土地」などの説あり。音より意味を汲み取るような漢字を選ぶことが望ましいと思いますけど、ま、網走る、絵としては悪くないかも。

北海道の地名の多くは漢字やカタカナが当てられている。開拓事業で現地の音に漢字を当てはめたわけで、音にあう漢字を探す作業はけっこうそれなりに面白かったのではないかな。いえ、こうした感想には、網走などの当て字された土地は、いつまでその呼び名で居ることができのさだろう、とする問いがくっついてくるのですけどね。

網走の向こうに広がるのはオホーツク海、その向こうには樺太、これは昔の名前、今はサハリンだ。北海道からサハリン、カムチャツカ、アリューシャン列島、アラスカ、カナダそしてカリフォルニア北部に至る環北太平洋沿岸地域の、北極を中心にぐるーつと丸く描かれた地図を目にすると、頭のお鉢が開いてくるようだ。これは解放なんだな、って、はて、何からの解放?



アラスカ先住民/言語地図 Krauss et al. 2011 を一部改変して制作 (和訳: 久郷洋子)

日本におけるアラスカ探検のパイオニアたちを語るイベント(※1)のチラシやポスター制作のため、北方民族の暮らしぶりを学んでいるところです。アラスカだけでも、民族別の言語地図で見ると16以上、複数の先住民の言語が隣り合っている様子がわかります。鮭、雁、アザラシなど求めて複数の先住民が集う。土地の名付け方は生業によっても違って来る、川の流れや水の量に注目するのか、川から湖へかけての土地の形に注目するのか、湖の周囲の村の数だけその呼び名があるわけだ。

言語分布図に国境線も記されている、カナダとアラスカを分ける線は「上」から「下」に真っ直ぐだ。単純な線ほど実はめんどろな事情を抱えている、暮らしの棲み分けに遠慮することのない線、「国」そうなんですよ、分捕りの線引き、これがやっかいなんですよね、ほんと。

【ウクライナの地名 あめがみ 飴紙の印字】

お菓子の包み紙を称して飴紙と呼んでいます。ソ連時代に計画経済で生産された飴紙を収集してみたことがあります。チョコだのキャラメルだの飴だのの小さな菓子の包み紙それぞれに、製造地域や工場が印字されているのですから、時代を読む資料なんですよね、集めてから気づ



ЧУДЕСНИЦЯ¹ すばらしい

ルガンシク

いたことですけど。

オークションサイトで集めたものを、ソ連の飴紙コレクションと題してネットで紹介しています。УССР「ウクライナソビエト社会主義共和国」とプリントされているものの中から、ウクライナの要素の強いものを中心にスライドショーにしてみました(※2)。

トップに民族楽器、弦楽器バンドウーラを抱えたこぐま、その包み紙には、マルクス工場・キエフの印字あり。次はキリル文字で「素晴らしい」と銘打たれた、とうもろこしが娘の姿をしている絵がついた包み紙、このデザインは二枚持っています、一つはジダノフスカ工場・ハリコフ もう一方のにはルガンスクとあります。

私はイラスト請負の生業でロシア語のテキストに寄稿することはありますが、ロシア語もウクライナ語もできません。包み紙にあるキリル文字の工場名や地域名とその和訳を添えて紹介しているのですが、文字をひとつひとつ、一本指打法ならぬひと文字ごとをカーソルでクリックしてキーボードから拾い上げる作業、古くてヨレた紙のはげかかった状態だと文字の判別も辛い。文字の羅列をネットの翻訳サイトに持って伺いをたてる。

私の手元にあるものはボロシーフグラード〔Воронцовград〕のものが多い、これはルハンシク州の州都ルハンシクのソ連時代の名称。1935〜58年および1970〜90年にはルハンシクと呼ばれていた、ウクライナ語名ではルハンシク、ロシア語名ではルガンスク、なんですと。

フルシチョフが土地の気候など考えないで農業政策を失敗したことは「とうもろこしおじさん」の逸話となったようですが、ルガンスクの工場のマークのある「とうもろこし娘 すばらしい」、これ、ウクライナにゆかりあるフルシチョフに因んだデザインのかな。この包み紙の製造はルガンスクと呼ばれた1935〜58年の間のものということですね。絵のタッチからみて1950年代の感じだ。フルシチョフが書記長を解任されたのは1964年。58年にとうもろこしを称賛するアニメが作られていたり、64年にはとうもろこしの料理をミュージカル仕立てにした映像がソ連初のコマースヤルと登場したりの頃。

手持ちのYCCPとある飴紙の数々を一本指打法で解明したところ、10月工場・ハリコフ、オデッサ、ドニプロ、ドネツク、シンフェロポリ……ウクライナ南東辺りの産が多いようです。リヴィウもいくつかあり

ますね、これは西の方。カタカナで表記するにもロシア語読みかウクライナ語読みかでとまどう作業、今君の名は、いいえ昔の名前が残っています、幾重にも、寄せる諍いさかいが心の地図を書き替えつつける。

(As of Apr. 10, 2024)

【注】

※1

明治大学国際連携本部主催国際理解イベント Worldwide 企画
明大初の考古学女子！ 岡田淳子先生とアラスカ遠征のパイオニアたち

2024年6月17日（月） 12時00分〜19時00分

※2

ソ連の飴紙 コレクション CANDY WRAPPERS of the USSR ウクライナ編
The Ukrainian Soviet Socialist Republic (the Ukrainian SSR)
<https://youtu.be/tlcedjF0bMw>

『ソ連の飴紙 コレクション CANDY WRAPPERS of the USSR』
<https://note.com/ariyoshikinako/m/m65e8c59265c9>
より収録画像をスライドショーにしたもの（より）